



C

12

# NOTE BOOK

KNH



十二月 二十一日 水曜日

今日は朝に、顔をつけんが、配給になった。  
二人で、一つづつである。  
とても頭がさたなくなつたので、頭を洗ひをして、  
一生懸命に洗つたが、黒くしてしまふので、サ  
たんにしてしまつた。  
午後になると、先生方がござうだん打さるので、お達  
は自習をしてゐた。  
私は綴方を書いてゐた。  
その間に、男の子達は、下じきを上げて遊んでゐた。  
畠も、つちのけに於いて遊んでゐた。  
しまひには下じきが、木にひつかかり、三割六分の岩く  
らさんが、木のぼつとつてゐる。  
見てゐる方がはらはらしてしまつた。





十二月 二十二日 金曜日 晴

今日は行軍である。

朝會をする時刻に出發した。

八度もつなが切れたので喜んでついてきてしまった。

今日は八坂神社まで行軍だ。

とてもしもがとけて道が悪かった。

やがてよい道へ出た。いろいろな家々は白い

長細い物が干してある。八坂神社に参拝して學園に歸った。お晝にいぼしめにたのが出た。

とてもおいしかった。午後、歌詠警報になつたので、防空服を着て、塙のまわりで遊んだ。

セ理さんと羽つきをした。セ理さんは暑く

なつてやめてしまったので、小池さんとやつてあました。とても暖かくなりました。

すると阿べ先生が林の中から垣根ごしにお呼びになつたので行ってみますと、木の葉を

あつめろとおっしゃったので、一生懸命にあ

つめて、山もりにしてから、道にもしいた。

一たん、わかれてから、今度は、園舎の前にあつまつて、日ばちのお式だ。

岸山先生が、のりとを讀まれた。

それから齊藤、助先生が、初日ひばちちに、初火をおつけになつた。

日ばちのお式が終つた。それから、自由に遊んだ。

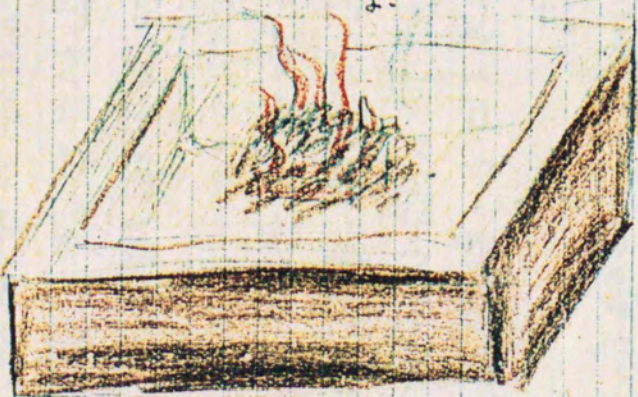
火の神がよく

火をくべて又危

険な事がある

百もやうと

おとめつたもすよ





十二月二十三日 土曜日 晴

今日は皇太子殿下のお生まれになった、おめでたい日である。

門には、国旗が、勇ましくたつてゐる。

午前中は、遠くへまきを取りに行つた。

行軍した道を、ずんずん歩いて行つた。

行きだけで、つかれてしまつてやつとついた。

先生が、まきを、こつこつ持つた。最後にもう一本

ふやし、なはで、しばつて下さつた。もめ、すぐ

重い。歸る氣が、なかつた。

學園に着いた時は、とても嬉しかった。

もう、一時近くなつてゐたので、とてもおな

かがすいてゐた。

お晝のおかずにおいしい、天ぷらの熱湯が出

た。

とてもおいしかった。

午後、私達は、お風呂にはいった。

とてもよい氣持だった。

十二月二十四日 日曜日 晴

## 六年 面會會回

今日は、六年生の面會日なので、六年生は、みんなにこにこしてゐる。

朝御飯の時に、昨日、天ぷらだったので、そのあぶらがはいつて、とてもおいしかった。

今日は、日記をためたので、あめてくさつて、一生懸命に書いたので、いっぱい書けた。

とても嬉しかった。

夕方まで、かがり、一日ずかかつて、書いた。

夕方、西村和子さんと、羽つきをした。

一生懸命に、ついたので、ずいぶんよくつた。

それなので、たちまち寒かつたのが、暖かくなつた。

晩御飯は、ほかほか湯氣がたつて、とてもおい

しかった。村野さんの家へ歸つてから、神尾先

生や、岩丸先生と、二年五年全体で、トランプをした。



十二月二十五日 月曜日 曇り晴

# 大正天皇御祭

今日は、大正天皇がおかみれになつた日である。お休で嬉し。

門には、国旗が、勇ましくなびいてゐる。

午前中は、もうすぐお正月なので、かゝる宿舍の大掃除をした。

はぢの荷物を真中によせ、すすをとつたり、きれいにけき、ばしよもかへたりすつかりせいとんしたので、前よりも、廣々として、部屋もきれいになつたので、氣がせいせいのした。

午後一生懸命に日記を書いてゐたが、手が、かぢかんで書けなくなつたので、たき火にあたつて指をぬばして、から、又書いた。

村野さんの家へ歸つて、みんなで、しやうじ、文を、はつりぬい、はつりぬい。

十二月二十六日 火曜日 晴

一時間目の理科の時は、弘田先生がいらつしやうなので、自習かと思つて、大喜びである。地理のしけんなので、がっかりしてしまつた。

少し書き始めてゐると、三部四年の人が、松本先生と聲を出した。私は、けつとして、ちよつと立つて、何かを見れば、大すきな松本先生！

皆、急にさやぎ出した。

## 松本先生！

先生は、私達を、通り起して、先生方の方へ行き、お話をなさつてゐる。私は、いかたなく、又書きだした。この時間も終つた。しけんは、夕方までなので、やめて、お風呂にはいりに、女學校へ行く。松本先生がいらつしやつた。

みんなといつしよに、お話をした。松本先生は、こんなに元氣ですよ。

とおつしやつて、さかだちをなさつたので、大笑ひをした。



御歌奉戴式

十二月二十七日 水曜日 晴

今日もよく晴たので、左の方には、美しい富士山や、いろいろな山々がよく、きれいに見えた。朝御飯はとてもおいしかった。

その時に作日、おならいした、朝飯を思ひ出した。朝會の時は、今日のよていだけお話ししてわかれた。午前中は、落ちば拾ひを、一時間位して、それから晝食まで日記を聞いた。鉛筆をけづったりした。お晝になると、敬戒警報がはつれいされたので、急いで用意をした。場のまはりへ行つて、たゞ始めると、空襲になつたので、防空場の中であつた。

今日は、おいしい、さつまいもの塩にの、おかずだつた。とてもおいしかった。それからあみものをして遊んでゐた。かいじよになると、すぐに、お部屋にけいして、御歌奉戴式をおこなつた。皇后陛下が、私達の事を思つて、おくだしになつた。ほんたうに有がたいことだ。校長先生が、お読みになつた時、くつたいをしてゐたが、終つた時は、頭があがらなかつた。

私がお風呂にはいつてゐる時、お晝のたいこが鳴つた。

今日もいつもどほり、眞赤になつた。それから、洋服を着て、急いで、机へもどつた。

ちやんと、出干の御ち走が待つてゐた。とてもおもしろかつた。お晝休に、暖かくなるまで、羽つきをした。それから又、一生懸命で、日記を書いた。

それから、算數の時間に、小數の手品といふのを、おしへていた。だいた。

その年と生まれの月め、わかりかたもおしへていた。だいた。

とても面白かつた。武道の時間には、自習をした。だいた。

國語の時間には、朝飯の所をおならひした。だいた。

読んでゐるうちに、なんだか、だんだん、だんだんおなかがすいてきてしまつた。

今日は、とても面白かつた。



た。

校長先生のお話も一生懸命に聞いてゐた。

お式も終つた。それから免御隊まで、日誌を書いた。

お食事が終つてまもなく、松本先生がいらつしやつた。とても花がかった。

松達江は松本先生の手はりにたかつてゐた。

五・六年集合になつたので、仕方なく、重いの足をいさぎづつてやつと、松本先生からわけられて集めた。今日は、村野さんにとまつて下さるという町あと思ひながら、つて、あふものをたしてあると、松本先生がいらつしやる。私はとても花しくて、思はず大聲がでてしまつた。

少しいろいろなお話をお聞きして、ひらトラップで、ちぢめきをした。あまり面白くなつてきただけで、ふたのしつぽといふのをした。松本先生は、笑ひじやうなので、すくお笑ひになつてしまつた。それから、さういふ三つをたして、花のつた。お月々を、思ひまう。とても楽しかつた。

十二月二十七日 水曜日 晴

疎開児童の事を思つての



次の世を

せおふべきみぞたなくましく  
ををしく延びよ  
里にうつりて



十二月二十八日 木曜日 晴

今日は三・四年のりんじ面會日、私達は明日である。寝てゐる時から嬉しくてし方がなかつた。下の方で、うつつたん、うつつたんとおもちつきの音がすると間もなく、留番起床の先生のお聲がしたので、急いではね起きた。寒いのでほとんど着がへた。

それから窓をあけて、階段の方へ行くと、山口先生と、神尾先生がおもちつきを見ていらつしやつた。お當番しないのですか。とお聞きすると、はいんですよ、来てはいけません。とおつしやつたので、又、二階へもどつた。皆も起きた。

松本先生の上に知らないうちに敷きぶとんがかけてあつたので、重くて、なかなかお起きにならない。やつと、のこのこお起きになつた。

私は先生のふとんをたたんだ。

私達の所をきれいにはいて、ほうきを、おきに行くと、山口先生と、神尾先生が、お供へもちをお

上手に作つていらつしやる。

村野さんはおもちつきを、私達のとけるまで、やめて出てしまふと、又、つきだした。

松本先生と、學園に行つた。山口先生と、神尾先生は、あとからいらつしやつた。

午前中は、一生懸命で日記を聞いてゐた。午後先生方が屋根にあがつて、何かしていらつしやるのを見ながら、日記を書いてゐると、敵機が来たといふので、急いで、腰掛もいれず、そのまゝ防空壕の中はいつた。それからしばらく、壕のそばで、日記を聞いたり、あみものをしたりしてゐた。お手洗ひから歸つて來ると、警報が、はつれ

いされた。それから、暗くなるまで、ずっと防空壕の中にはいつてゐた。

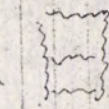
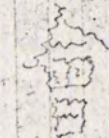
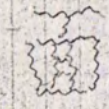
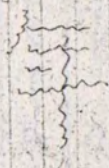
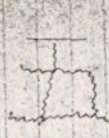
足が、とてもつめたかつた。

私はあみものをしてゐた。

真暗になつてしまつた。村野さんの家へ歸つてから、手を暖めてから寝た。



十二月二十九日 金曜日 晴



今日は嬉しいお達の面會日だ。とてもよいお天気だ。かたい土をふんで學園に行った。

洗面をするのが水がめたいのでいやだったがきれいに洗った。朝會もすんだ。待っても待つていらつしやらないのでしかたなしにあきらめてしまった。お風呂にもまだおはいらつしやらないのでどうせと思つてあとから行つた。

お學校でくつ下をあんだ。私のはいつてゐる時晝食のたいこが鳴った。急いで出た。お母様が出来ていらつしやつたのでとても嬉しかった。

大急ぎで晝食をして、お母様のところへとんで行つた。

いろいろな事をお話した。とても楽しかつた。お母様はおそろしくいらつしやつて、二時頃お歸りになつてしまつた。それから夕食まで、くつしたのかかとをあんだ。

十二月三十日 土曜日 晴

今日はおもちつきの日なので寝てゐる時からよい音がしてゐた。

男の先生方が大ぜいいらつしやつていらつしやる。お達り受持の喜門先生もいらつしやつてゐた。

やがて學園に行つた。お食事がすんでから、火ばちにあたつてゐた。たいこが鳴つたので、園舎の前に集合した。すると、村野さんにもろつきを見に行くとの事、十分の間に用意して行く事になりました。私はとても嬉しかつた。お皿も持つて行つた。最初は、三・四年が見えて、その次に五・六年が見えた。つきたてのおもちは大根おろしとおしよやをつけたのをいただきなづら見てゐた。とてもおいしいのやら、お上手なので、嬉しさでいっぱいだった。

午後、喜門先生と堀先生の肩たたきをしたら、どのおもちも喜門先生はおつきになつたの



夕方、乙葉さんと、羽つきをした。



今日も起きた時は晴れてゐた。

午前中、東京五十年生の三四班は、學園内の所を  
きれいに付いた。

小さな本をつかつて、はいたとても「生懸命やつたので暑つくじつて、うは着をぬいでしまつた。」  
終つてから、晝食まで、日記を書いてゐた。  
午後は自由だつたので、あみものをしたり日記  
を書いたりしてゐた。お風呂にはいつた時、一  
生懸命であみをおとした。

あすは嬉しうお正月、思へば思ふほど嬉し  
くて嬉しくてし方がない。



昭和二十年

一月一日 月曜日

今日から二十年である。去年まではお正月に着物を着てみたが今年はいきれいな襦袢を着て疎開學園でお友達と御いっしょに年を迎えるのだ。きれいな襦袢、きれいなずばん、みんないきれいにして、年を迎えた。いつもおはやうございませうといふが今日はその變りに今日は「おめでたうございませう」と元氣はつらつと御あいさつをした。

道を歩いて行くにもいつもと違つてすごくきれいになつたやうな感じがした。

だが十三才になつたやうな気がしなかつた。

學校について洗面をするにも一生懸命で、きれいにきれいに洗ひ、かみをきれいにとかし、クリームもつけて、神だになにかつていつもよりいつそうよくおびんだ。それから須田さんと羽つきをした。いちばんよく續いて、ハナ三續いた。とても嬉しかった。



少したつと、喜門先生がいらつしやつて、ワニ、  
ツウ、スリ、でやつて、須田さんと私と變つた。  
喜門先生はお上手なのでとてもよく續いた。

朝食は、底學年からだつた。私達は、あとの方  
で、とても待ちどほしかつた。

おさうには、みづつぽかつた。びとでもおもしろか  
つた。又、お食事がつむと、須田さんや相良さ  
ん達と羽つきをした。すると、はいこが鳴つたの  
で、園舎の前に集つた。それから、お部屋の中は  
はいつて、拝賀式をおこなつた。今日、おもちや  
の配給があり、二部五・六年は、愛國百人一首  
があつた。とても嬉しかつた。部屋から  
外へ出てみると、だれもいないので、うらうら  
してゐると、喜門先生が羽つきをやらうと  
おつしやつたので、おひばねをやつた。とて  
もよくつづいて面白かつた。それから、お部屋  
にはいつて、みんなと、かるたをやつたり、愛  
國百人一首をやつてゐると、晝食になつた。

おかずに、おにしめといふおいしい大すきめが  
出た。午後、百人一首をしたり、デスチヤーをし  
たり、日記を書いたりした。とても楽しかつた。

一月 二日 火曜日 晴

今日は、三四年の面會日！とてもよく晴れて  
ゐる。私は、とてもうらやましかつた。

朝は、おいしいおさうにだつた。それから、朝會  
びすんで、から書初をした。手は、かじかみの  
ばせ、キューピーの手みたに、指がつかず、つ  
くと思ふと、はきつてしまふ。外では、風がびゅう  
びゅう吹き、土煙がたつてゐる。書初がうまく  
書けなかつた。お晝は、三四年は、おもしろ  
に、何かに、てゐる。ますますうらやましかつ  
た。私達のおかすば、おにしめと、つくだになつ  
た。午後は、餘曲だつた。

最初は、<sup>選</sup>曲の曲ぎだつた。あまりすごいので  
驚いてしまつた。曲藝も、らく語も、みんな何  
といつて、いかわからぬほど面白かつた。  
あとで聞けば、日本一ださうだつた。



一月 三日 水曜日 晴

今日け。私達の面會日だ。私はたべられ  
るとはゆめにも思つてゐなかつた。これけ  
ど嬉しい日はない。今日は又、作日と違つて、大  
へんよく晴れ、おだやかな暖かい日だ。

朝から嬉しくてしぜんと笑つてしまふ。お食  
事はけ。おさうにだつた。皆かげんしてたべな  
い。私はたつもたべてしまつたのでおなかな  
がいっぱいになつてしまつたので、羽つきをして  
一生懸命にへうした。おせいせきをいただいた。  
防空壕の中にはいつて、あんぜんにして、見た  
朝會がすんでしまつた。お母様がいらつし  
やつた。とても嬉しかった。

ござの土にすはり、さつてゑたべだした。お母  
様とお話しながら、楽しくたべた。それから  
宮澤さんや、恵澤さんと遊んだりした。とても  
おなかがいっぱいだった。お母様は、三時頃にお  
歸りになつた。別れるのがとてもつらかつた。

先生にも少しした心物をお上げした。のこつ

たので、おちゆ箱にとつておいた。晩に先生  
が、あすまでにはたべられなかつたら、持つて  
来いとおつしやつたので、とてもつまらなかつ  
たので、三部五年や三部三年に全部上げ  
てしまつた。お野さんの家へ歸つてから、お  
こり物を、おいしくわけてたべた。そして、お  
なかがすまだしたので、さつき上げたのをか  
へしても、うむになつた。とてもあげてしまつ  
た事が、しやうだつた。ますますすいてしまつた。

一月 四日 木曜日 曇のち晴

今日は曇つてゐて寒い。午前中は、大掃除で  
私は、ごふ所掃除をした。とてもよくぬれてゐた  
ので、終つた時は、せいせいした。午後には、ぎよ  
う式をした。

式がすんでから、私は、一生懸命に、つたを  
あんだ。それから、日記がたまらぬやう  
に今日の日記を書いた。



一月 五日 金曜日 晴

今日は、待ちに待った福つりの日である。  
朝から嬉しくてしかたがなかった。  
午前中は、ぬんりようあつめ、落ち葉拾ひ  
をした。

とてもたふさんあつまり、ぬんりよさやは、  
いっぱいになった。私は、乙葉さんと大  
島さんといっしょに、おのござに、一ぱい入れ  
て、一生懸命にはこんだ。

晝御飯もすんだ。いよいよ福つりである。  
つり竿で魚をつるやうにした。皆は、わあ  
と言って、四列に部屋の中に列を作った。

私は、すくたを並べてから、はいった。

後から、番めだった。つてから、あけ  
てみると、本が二つ、帳面二つ、羽根が二つ

小さい板が二つにみかんが五つだった。

私は、さん嬉しくなかった。たべ物は、いって  
ゐない方が、いさうなめで、全部あつめて、  
宿舎でわけて、皆で、おいしく食べた。

一月 六日 土曜日 晴りち曇

### 追羽根大会

今日は、追羽根大会である。

わりあひおたやかな日だった。

私達五年生は、岩丸先生がしんげんかん  
でやった。しばらくは、一生懸命に練習を  
した。私は、堺井さんとだった。とてもよく

続いた。午前中は、小さい人が二人だけで  
終つてしまった。とても下へんき、きそんが

あった。私は、びくびくして、晝御飯も、一生懸  
命二人でおけいこした。

午後は、私達が一番だった。始めには、私が

勝つてゐたが、おなしになつて、最後  
の二つといふところで、私は、負けた。

五年で勝つたのは、一部五年の林さんだった。

私は、すんでから、すぐにお風呂にけいいた。  
出てきた時、かん學年が、一ぱん勝つた人けい  
二つづつ、みかんをもらつてゐた。



一月 七日 日曜日

今日は七草です。

朝食は、はかばかとしたおもちのはいたたおかやでし  
た。

いつもはあまいあまいお砂糖がはいつてゐるりです  
が、ひじょうじなので今日はないつておなやうだがこ  
てもおいしかった。

午前中は大掃除でした。

私は、園舎の窓を一生懸命にきれいにした。

床のは、紙でこすつておたが紙ではなかなが  
きれいにならないので、自分の布でこびこしこ  
すつた。

やつこのこさで、みんないきれになつたので、火  
ばちに火をおこして、あたたかた。

お掃除がすんだあとなので、その時は、ちよ  
うど午がつめたかつた。それから、お休、お門  
は靴下をあらは、宿舎へ歸つてから、みんな、で  
楽しくトランプをして遊んだ。

一月 八日 月曜日

大詔奉戴日

今日は、大詔奉戴日である。

お式が、終つてから、私は、戦地の兵隊さ  
んへ、一生懸命に慰問文を書いた。

自習の時、門にも慰問文を書き續けてあ  
た。

書き終つてから、私は、あみものばかし、中  
にはなつてゐる。



一月 九日 火曜日

朝、とても寒かつたので、お友達といつし  
て、羽根つきをして、暖かした。



二時間目に私達は、お風呂に行つた。  
手がかじかんでゐたのびにちまのうら  
にのびた。

午後、大へん下、お客さんが来た。

くらしい敵機が日本の大空をいういふと  
飛んでゐる。

私達も壕の中で何もないやうに楽しんで遊  
んでゐた。片山先生が子供達を見てよしい  
とおつしやつたので、入口におしよせた。

體當だ！と見る見る火をばいて落ちて

行つた。日本の飛行機はすぐ落ちてしまつた

が敵機は、ごうじまつぱりで、なかなか落ちず

気がいひのやうにぐるぐるまわつてやつと落

ちた。又、中へはいつてゐたが、めづくて遊ぶ

事が出来なかつた。「ブッカサン」が開かないと

聞いた時の悲しさ思はずきをあはせておが

んだ。大へん長く續いてゐた。宿舎へ歸つて

今日の事を考へながら、あみものをした。

一月十日 水曜日 晴

朝、中央公會堂へ落ちた敵機のけへんを見  
に行き、人間のあつたところまで行きたいと

ゐたが、ためだつた。おれは、さんねんで、さん  
ねんで、しかたがなかつた。學友で、お食事

をすまうと、石田先生と、行きたい人が、行つた。

おぼだまされて、行かれず、あそこかうおつて  
行く、高田先生が、何かふの先生のお許を

すけましたか、と、かかれ、はつとして、その中の  
二人がお聞きしに行つた。歸つて来てから、

急いでおつかけたが、おびつた。なかつた。いい  
あんなに、村野さんのおばあさんにあひ聞

いて、もうすぐといふ時、森先生にあつた。森  
先生は、驚いていらつしやつた。つれて行つて下

さつた。とても、大きい。どんどん、ところど  
ころへ行つて、やつと、人間の所まで来た。

頭が足だか、やつぱりわけがわからなかつた。  
どその人がおしへて、下さつて、やつと



わかつた。顔が真黒なつた。

全部見終つた時、おけ、平氣な顔で歸つてきたが、じつは、おながも、ペこペこで、つかれてしまつた。午前中は、撃墜した敵機の見學で終つた。三部五、六年の人が、お菓子やなへんやおべんたう箱を取つてきたこゝろだつた。午後の算數の時、ソロバンをした。

一月十一日 木曜日 曇

今日は、大へん寒かつた。それなのに、たき火をつくつていた。大へん、今日は、目習が大いので、たき火ばかりあつた。時々、あみものをしたり、勉強したりした。それから、須田さん達と、動物台で遊んで遊んだ。

また、たき火にあつて遊んでゐると、私の、大すきな、山本隊長さんからおたよりが来た。お返事だつた。

大へん嬉しくて、何回も読み歸したりした。

一月十二日 金曜日 晴

今日は、よく晴れてゐたが、風がひどかつた。午前中は、遠いところへ、まき、村、運びに行つた。頃々の行軍より、遠い所へ取りに行くのだ。行きだけでつかれてしまつた。

けしきのよいところも通つて行つた。なつた、西武電車にもあつた。

おれにのつて東京へ行きたいなと思つた。

東村山の踏切のへんからしよつて来た。くたくたになつて歸つてきた。歸つてから、

口をやすんだり、顔を洗つたりしたら、水がごう水めやうになつた。風がひどいので、部屋の

中でお食事した。それから、お風呂にけいた。少しづつ、れがなつた。

お風呂に行つて持つてゐる時、あみものをして遊んでゐた。

それから、あと、夕食までは、一生懸命に日記を書いた。



一月 十三日 土曜日 晴

今日のお習字の時間に、撃鼓歌機見  
等の文を書いた。 繒も書いた。

私は重田さん達の繒を書いた。

それから堺井さん達といっしょに「ペー

ジワシ」や「五十一」などをして楽しくお

もどく遊んだ。

それからあみものをあそび通して面會

日なので、おれまで来たあそびで

行かうと思つて、一生懸命にあんだ。

宿舎に歸つてからもあんだ。

今日は菅村先生のおこまりであ

つた。そし

て、寝てか

ら、先生に

おねだりを

して、お話を

していただ

いたとても

面白かつた。



一月 十四日 日曜日

### 四年 面會日

私達は午前中はみんなになのせり  
こんをしたら。

おれでから、すぐにおち葉拾ひをした。

私は大島さんや、築さん達と私のこぞ

で、一ぱいあつめては運んで、私が運ん

で来た時、もうどう一ぱいになつて、終り

なつた。

午後、堺井さん達と、思つて二をした。

私が思になつて、しつと、いつまでたつても、

けんけん、すばしつ、いのでなかなかつ

まらな。しまひには、ふになつて、やつ

と、築さんや、大島さんを、あつて、た

けで、思を、かへて、しつた。

あつた、とても、走る、元氣がなかつた。

やぎに、から、たらの、葉を、やつ、おる、と、や

ぎは、喜び、おの、し、さうに、た、べ、て、み、た。



月曜日

圖工の自間に、私は須田さんと、一生懸命で、飛行機のし翼のひこをまげた。

休保の時、角習をした。私は日記を書いた。

お晝は、おいしいたらぬおかずであつた。

午後には體重を減らす、うり道を逃してき

養所へ行つた。私達はお風呂にはいらずにては

らなりので、一ぱと最初にやつてみた。それで

て矢に歸つてお風呂

にけいつて

そめたり

あらわや  
バカ  
ハ  
ハ

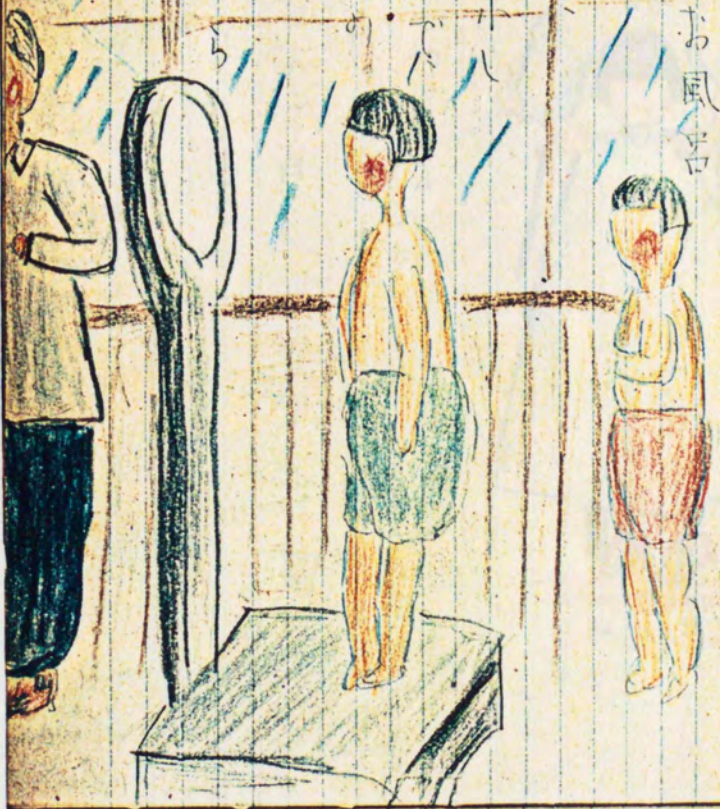
降つてき  
の  
下

A vertical illustration of a person, likely a woman, with a shaved head and a red mark on their face. They are wearing a green garment. The illustration is positioned to the right of the text in the second column.

夕食日新屋

平  
て  
た  
て

街飯三



火曜日

今日の一時間目は、理科で、弘田先生が

うつゝやうに、  
いので、  
自  
言  
を  
し  
た

そけふらみんがで小池  
セーのちお秋縫箱を

イがしてゐると、ゲームの配給があつたので

くじを引いた。私は五取競争があつた。

それから問もなぐげたの配給がありえ、とじ

を引いた。こじは山口先生が作つてゐたやつ

た。

つ  
ま  
ら  
な

1) 2) 3) 4) 5)

はあてう

三  
 十  
 七  
 日

[illegible]

一、

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and faint smudges, characteristic of old paper. The left edge of the page shows the binding of the book, with visible stitching and the inner cover material. The overall tone is warm and slightly yellowed, suggesting the age of the document.

1



一月十七日 水曜日

今日はとても寒かったのへ、たき火にあ  
たった

とても暖かかった

今日は十七日、

で、とこやさんが来

た。

伝達二部五、六年、

夕方、おそ

まて

り

たので、

おへ

喜門先生といつ

宿舎へ歸った。

それから、皆で、自人一しやした。

とても面白かった。



一月十八日 木曜日

今日の一時間は、時間目ごろに校長  
先生がいらつしやるので、大掃除

をした。伝達二部五、六年は、お金の買

き、いじった。そのあとで、たき火をした。

二時間目には、こころも、お金の買

果子の、伝達二部五、六年は、お金の買

た。二部六、七年の、お金の買

さん、お金の買

讀りになつた。

午後、学校の方

で、お金の買

をした。お金の買

どろ水のやうになつた。

それから、お金の買

とても暖かかった。夕方、お金の買

き、いじった。





一月十九日 金曜日

一時間目に御歌と御果子の感想文を書いた。書くつもりがなかなか頭には浮かばなかつた。お昼の時は私はお風呂で、そのので一生懸命にどんどんお風呂に、お風呂に思ふやうにいかになつた。お昼私達は配食なのでくづつてゐると、お風呂に、加藤先生と仲んだ。私達は、そのまゝとんで行きた。みんなは加藤先生のところへ集つた。加藤先生があとでゆつくりお話を、しよせうと、おつしやつたので、しかたなく自分のところへもどつた。それから、敬報がでて、防空壕の中にある加藤先生が、いつていらつしやつた。そして、おい防空壕ね。とおつしやつた。私達は、トランプをししながら、ゆつくりとお話をした。

二月二十日 土曜日

午前中は授業をした。午後のお習字の時間にすみ繪を書いた。私は、お食事のころを書いた。とてもむずかしかつた。六時間目から、落ち集拾ひをした。あとで、ごかしのお果子をいただいた。御歌を奉唱して、からいた。お話しのお果子のうたに、働いた。あ、な、めでても、お話しかつた。一月二十一日 日曜日。今日は、常しい面會日である。朝から、糖しくでしかたがなかつた。わりあひに早くいらつしやつた。ゆつくりと面會した。午後、五年生めは、が、新運びであつた。へん、みんな、歸つてきたと思つたら、五年生集會とおつしやつた。五年生も運ぶのだ。みんなは、二回めを運ぶに行つた。



歸りになはがとけ新がづれて困つてゐると喜  
門先生がいらつしやつて、しつかり休につけて下さ  
つた。とても癒しがつた。

私はみんなをおひめき、早く歸つてみんなの  
おうえんにきた。ニニ回もどつてきてから阿  
陪先生のとお持ちしてあげた。

一月二十一日 月曜日

今日は行軍である。

小坂神社へ行つた。そして、参拜をしてから神  
社のうちで、青少年学徒にたまはりたる勅語を  
ほう讀をした。

そして、三・四年におしへた。歸りは、久米川の方  
を通つて歸つた。久米川の驛も通つた。

とてもなつかしかった。

午後、大掃除をした。

私達は、かなだらひをお掃除した。

あとでみると、眞白なかなだらひになり、  
目がさめるやうになつてゐて、だいの上に

きれいに並んでゐた。

一月二十三日 火曜日

一時間目の自習の時間には國語をした。

二時間目の自習の時間にも國語をした。

そして、不沈艦の最期をおはらひした。

午後、とても寒かつたので、火ばちにあつた。

そして、火吹き竹で、吹きつこをした。宿舎へ歸つて

火ばちにあたりながら、ガスチヤーをして遊んだ。



一月二十四日 水曜日

一時間目の休養の時間にはいざいざ

それから算数の時は雪が降ってきた。

とても寒かった。そして火ばちにあたっている

ところお八つのだいこが鳴った。

みかんだった。私はみかんを急いでたべてえ

あたりに行った。

一月二十五日 木曜日

一時間目は前廊下の大掃除をした。

午後、一・二班は、ごみ所掃除をした。

そのあとで、お湯をいただい、手をきれいに

洗った。そのあとで、とうひきゆうをした。

とても面白かつ

た。

お八つにみか

んがあつた。

一月二十六日 金曜日

今日の算数の時間にそろばんのしけんがあつ

た。

私は時間がなかったため出来なかった。

二時間目が終ると、すぐに書食になった。

午後、お裁縫の時間に地理をやり、地理の時間に

お裁縫をした。お八つにはみかんがあつた。

夕方、きり火にあたった。とても暖かだった。

一月二十七日 土曜日

今日は、とても寒かったため暖かい火ばちに

あつた。

算数の時、そろばんのおじらべがあつた。

今日は、二部のお風呂だった。

私は、急いで女学校の方へ行った。

お風呂は、とてもよいお湯だった。

夕方に寒さも消えてしまった。



一月二十八日 日曜日

今日は六年生の面會日である。

私は午前中は火ばちにあたりどうしてあつた。今日はよく暗れてゐるが、とても風がひどかつた。

午後、堺井さんと相良さんと影田さんといつしよにトランプをして遊んだ。すると、だれかが、こひがぬる。と言つたので、見に行くと、こひが

二匹かな。だらひの中にゐた。二匹は少し息をふき返してゐた。すると齋藤興助先生が、水まきを手傳へいと言はれて、お手傳ひをした。あまり長んしたのでつかれてしまつた。

全部まき終つて、今度は「前廊下を掃除した」といふ言はれて、又お掃除した。

つと終つて、トランプを一回位すると、夕食になつてしまつた。

一月二十九日 月曜日

風がとても吹いて、はこりがにので、休日の時間には並んで、水まきをした。

それから落ち葉拾ひをした。みんな一生懸命あつめたので、たちまちのうちにあつた。國語の時間に綴方を畫いた。

宿舎へ歸つてからみんなで楽しく遊んだ。

一月三十日 火曜日

音楽の時間に一人一人スキの歌を歌つた。大きい順番だつたので、時間がななくて、小さい人は歌はなかつた。よかつたと思つた。算数の時間に二けたの掛算をした。



一月三十一日 水曜日

一時間目は習字だった。

二時間目の図工の時間に飛行機を作った。

今日のお八つにかせい学校

からのビスケットだった。

夕方、実隊さんがまき木を

持つて通った。とてもかる

がると持つて足並そろへて

歩いて行くのはとてもきれい

だった。

二月一日 木曜日

休日の時間に林で落ち葉拾ひをした。

午前中授業をしてゐる時、六年生が大勢来

た。

午後、みんなで机をつるつるにきいひに

生懸命にみがいた。あとで、ちよつこさばると

つるつるすべつてしまった。外套の場所もき

めた。夕食までお部屋のずでお裁縫をした。

二月二日 金曜日

今日は雪がつもつておたので、長靴をはいて

行った。

朝、火ばちにあいた。算数の時間にはそら

ばんのおしらべがあつた。

二月三日 土曜日

## 節分

午前中の地理の時間には二部三年の熊坂さ

んが来た。みんながちよつこそつちを見た

り、それから、まきをいれられてしまった。

午後、お話會があつた。

一番は喜門先生の節分についてのお話だった。

二番目は石田先生の面白い愉快な歌だった。

三番目の菅村先生のお歌は勇ましい歌だった。

私達もいっしょに歌った。四番目は岸山先生

の馬鹿なむす子の面白いお話を聞いた。

あまりの馬鹿におかしな話だった。



その次は六年生の歌だった。

それから堀先生の七蔵物語といふお話を聞いた。最後には豆まきをして終った。

それから自分の年の二倍お豆をいただいた。するめもいただいた。とてもおいしかった。

二月四日 日曜日

今日は三年生の面會日だ。

私達は午前中は、大掃除をした。私達は園舎のうらのお掃除をした。

お掃除のあとで、喜門先生が、たま火を作つて下さった。

午前はあたりどうしだった。昼食にカレーライスがあった。

二月五日 月曜日

今日は、お風呂のお湯で、頭を洗った。

どう水のやうに真黒にお湯がなつた。

あとはとてもさっぱりした。今まで、かいかったのが、にちまちなはつた。

午後、村野さんへ薪を取りに行った。

今日も早く歸つてきて、みんなをむかへに行つた。お八つにかりんとうがあった。

二月六日 火曜日

理科の時間には、弘田先生がいっぱしやうなりの自習をした。

政道の時間に算数をした。

今日は、分數をおならひした。

二月七日 水曜日

朝食の時に敬報が出た。

敬報がでたので、授業は二時間目から始つた。

六時間目の音楽の時、め音をして、お帳面を出した。

二月八日 木曜日

一時間目に慰問文を聞いたが、氣持が悪くしかたがなかつた。

二時間目から雪合戦があったが私は見てゐた。



軍令戦がすみ午前中に慰問文を聞きあげた。午後、お風呂へはいりに行つた時から病室のすみつこによりかがつて、夜までゐた。今日もお八つにかりんとうがあつた。

二月九日 金曜日

今日は一日氣持が悪くて寝てゐた。とてもたいくつだつた。

二月十日 土曜日

今日も朝から寝てゐた。それから、校長先生がいらつしやつて、病室をおあけになつて、「おつむはいたいがい。」とおつしやつて、にこにこしていらつしやつた。

二月十一日 日曜日 晴

## 紀元節

今日はおめでたい紀元節である。

それに四年生の面會日だ。私は朝から起きて行つた。とても寒くて、日なたぼつこ

ひかししてゐた。

お式には出なかつた。

晝食は、とても天御ち走だつた。とてもおなかがいっぱいになつた。

午後、外套を着て日なたぼつこをしてゐた。夕食をたべてゐる時、とてもおなか

が痛くて、のこしてしまつた。

二月十二日 月曜日

今日も氣持が悪くて寝てゐた。

二月十三日 火曜日

今日も、少しむりだつたが、一時間目から、此きだした。音楽をした。

その間の時間は、自習だつた。

私は算數や國語をしたり、日記を書いたりした。とても寒かつたので、火ばちにあつた。

二月十四日 水曜日

時間目に敬報が出た。

私は防空壕の中で、トランプをして遊んだ。



二月十五日 水曜日

午前中は授業をした。

それから私達は、お風呂にはいった。

午後、體重を測って、いに行かうとして、せい列

すると、敬報になつてしまったので、行かれなかつた。

二月十六日 金曜日

今日の朝、ふとんをたたんで、つるゝ敬報が

出た。

しばらく、村野さんの防空壕にはいつてゐ

た。敬成敬報になつた時、急いで學園に行

つた。行くところ、朝食をした。もう、晝

食どつようだった。

お八つは、豆があつた。晝食はなかつた。

夕食が、むと急いで、宿舎へ歸つた。

すぐにふとんを敷いて、敷バとんごと、まく

つて、そこで、トランプをして遊んだ。

私はとても頭が痛くて、泣きたい位だった。

が、じつとがまんをしてゐた。

二月十七日 土曜日

今日も、急いで、學園に行き、行つた。とうざに防空壕にとびこんだ。

朝食は、こりやん御飯のおにぎりだつた。とてもおいしかった。

夕食の時、敬成敬報がかいじよになつた。

私はとびあがつて喜んだ。それは、あつた。私は、私達の面會日なめだ。なげさう嬉しかった。

宿舎へ歸つて、さつそくおみせをひらき、荷

持をもちへた。

二月十八日 日曜日 晴

今日は、私達の面會日だ。私達はいつも、め

ぐまれて、うんがい。晝食の、ちよつと、前

いらつしやつた。うらで、日めあたる暖かな

ところで面會した。お母様のお話を聞いて、

私、びつくりした。お家の前には、三五のヤロの爆

弾が落ちて、門もとび、いもとび、お母様の



狂おしくもなつた。聞いた時の悲し  
さがこみあげり、胸が一ぱいだった。

爆弾から家までよりも遠い、兵舎がとんで  
しまつた。には驚いた。門のこまらり太さ  
松の木が、お家の二階をこびこして、島に落  
ちた。聞いた、まさしく驚いた。家はこぼず  
家の人もみんな無事なことは信じかつた。  
ところが三日あつた。お父様が、自警車から  
落ちて、足をとおおりになつた。悲しい事ば  
かしで、何が何だかわからなく、笑つて樂し  
く面會する元氣もなかつた。

だが、がまんをして、お母様はあまりの悲しさ  
をわからないやうに、かゝしてゐた。

お母様がお歸りになつてから、乙葉さん、  
手傳つていた。だいて、はなをすげだ。  
それから、乙葉さんとお部屋の中で、あ  
かしのをした。すると、お友達、お達の  
ほうへ、つて、つしやつたので、二人から、

おちま、ちりうち、に、お三倍になつた。

十月十九日 月曜日 晴

時間目は、圖工で飛行機を作つた。

私は、須田さん、と、ムンで、わりのだ。

十三時間目は、自習だったので、續けて作  
てゐた。

とても、ごんごん、出来て、ずいぶん、進んだので  
とても、嬉しがつた。

午後、敬報がでた。

敬成敬報の時、私は、と、屋さんに、顔をひ  
つても、らつてゐた。

もう、すき、がり、終る、時に、退避、早く、壕に  
はい、い、と、言は、れて、その、ま、ま、急いで、壕には  
いつた。

出て、から、入、つて、もらつた。

十月二十日 火曜日

時間目も、二時間目も、授業を、し、三時  
間目、に、體重、を、て、い、に行つた。



大へん早く終つた。

晝食がうんでから、二部五六年は、村野さんのところにある薪を全部とりに行つた。

薪を等分してから、村野さんのおぢさんに、くじを作つていただいて、持つて行くのをきめた。

私は、七里さんと大ぢい薪を一つづつあつた。

あまりの重さにへたばつてしまつた。

とても暑つた。それからお風呂にはいった。

二月二十一日 水曜日

朝食は、おいしいおぢやだつた。

午前中は東村山へ薪を取りに行つた。

そこまで行くに、荷も持たずに學園に歸つてきた。

お話によると、違ふ場所にもつとよい薪があつて、そこへ午後、薪屋さんが来て、そこへ、薪をいれてくれる。さうだつた。

午後、薪屋さんが来た。私は違ひいつせいに並んだ。

村の中をぐるぐるぐるぐる廻り、やつと薪のあるところまで来た。とても、少ない。かかるかつたので、七里さんといつしよに、とんとん歩いて、三四年も、ずんずん廻ひ、していった。三先生が重さうに持つてゐたので、私は一つ持つてゐた。

二月二十二日 木曜日 雪

朝起きてみると、雪が降つてゐたので、私は、かつばを着て學園に行つた。

休日の時間は、自習をした。私は、日記を書いてゐた。お釈迦の時、えりくけをした。

時間目は、國語だった。私は、源氏と平家の「宇治川の先陣」を読んだ。修身の時間には、



川生岩子のところをばうった。

五時間の國語には自習をした。夜にな

つてもまだ降りやみませんでした。

すごくつもり、長靴がもぐるほどだった。

私は、さういひ、がっばを着て、かさをさし

て行つたので、ひとつもぬけなかった。

雪が深かつたので、長ぐつの人で先にな

つて歩いて行つた。

私は、村のさんのふみで、一ばんだった。

弘田先生が、いろいろなものをかゝり

したり、あたたつたりするために、雪年

一つずつ火ばちに火を起して下さった。

私は、皆に悪いので、あたらずにあみもの

をしてゐた。

二月二十三日 金曜日 晴

朝起きて外へ出ると、とてもよく晴れ

てゐたが、すごく雪がふかつた。

私は、和子さんのおふとんをかついで

行つた。そして、かばんは、大島さんに

しよつて行つていんだ。

朝會には、林に集つて、午前中は、聖合歌

をした。赤軍は、菅野先生、白軍は、八柳

先生だった。私は、めちやめちやに八柳

先生にぶつてた。とても愉快だった。

聖合歌のあとは、とてもかばかして

暖かつた。それから、日記を書いた。

午後、五、六年は、米運びだった。私は、

河井さんに、リツリサツクをおかりし

たが、お返しはお風呂に、いつてゐたの

で行かなかつた。

夕方まで、日記を書いてゐた。

二月二十四日 土曜日

朝會には、林の方に集つた。陪阿先生

のお話があつた。足は、つめた。

寒くて、たまらなかつた。

じや、靴をばくして、陪阿先生に



いかられて立いてゐるのを見ると、  
まで、はらけらしてしまつた。

一時間目は防空場の雪のりだつた。

始めは六年生がした。その間に、私達は  
たなのせいとんをし、火ばちにあはつて  
ゐた。

それから、六年生と、こうたいをしてやつ  
た。私は、小さいしやべりで、六年生の雪  
のをどけてゐた。どけ終つて出てみる  
と、だれもいなくなつた。びつくりして、急  
いで行つてみた。みんな、國語をしてゐ  
た。私は、はづかしなやつてしまつた。

國語のかいしやくをした。

午後、全員大掃除だつたが、二部五六  
年の、長靴や雨靴のある人達、おみそ  
を取りに行つた。わりあひ近かつた。  
お店に行く、何だか、めづかしな感じが  
よろきよろきしてしまつた。

おみそは、とてもよいにはひだつた。

なめたい位だつた。思つたよりは重かつた。

二月二十五日 日曜日。

今日は六年生の面會日なので、六年生  
は、とても荷物があはいのので、私達が、  
手傳つてあげた。學園につくところ、  
空襲で、机の上に荷物を置いて、防空場  
にはいつた。

少したつと、先生が、椅子を持ちつて、  
下さつた。とてもおなががついてしまつ  
てゐる。ききも、おにぎり、が来た。  
とても嬉しかつた。私は、まじいのと、二  
角のを取つた。うばいおしほがついてお  
て、とてもおいしかつた。晝食は、場の  
上でたべた。午後、雪が降つてきて、とて  
も寒かつた。夕方、かじよになつた。私  
は、高橋さんにかさをあかりして、歸つ  
た。宿舎へ歸り、いようとう時刻は、ふ



とんを敷いた。雪のうえに一日防空壕にはいつてゐたので、それからつお風呂にはいりに行つた。とてもよく暖まつた。自分の自由に出られるのだ。出てがらすぐに寝た。まるで久しぶりに寝る前にはいつたので家のやうな感じがした。とても嬉しくて、一人でほくほくしてゐた。そしてすぐ寝らした。

二月二十六日 月曜日

今日、あぶないもので、六時半に起きた。やはり敬報が出た。とても雪がつもつてゐたので、長靴の人が先に行つた。道が深いので、遠くはよりまゐりて行つた。午前中に敬報がけいじになつた。それから椅子を塲から出した。二回目に行く途中に松から雪が落ちてきたので、かぶつてしまつた。とてもつめたかつた。そしてお部屋の中へ椅子を入

れた。宿舎へ歸つて、げきを考へた。

二月二十七日 火曜日

今日の自習の時間に廊下のところまでげきの練習をした。私達は、働く天狗とまよつたのだ。三時間目には防空壕の雪のけをした。あまり一ぱいもつてゐて、とても大へんだつた。すると間もなくお食事の音が鳴つた。私達は配食なので急いでお部屋にはいつて、みんなのをつけてゐた。

午後、みんなでげきにつかふ。材料を作して、宿舎へ歸つて、天狗を書きなほした。

二月二十八日 水曜日 晴

朝、學舎へ行く途中、雪の上にはめると永つてゐて、もぐらない。私は面白くなつて、いつて歩いて行つた。朝食はおかずだった。とてもおいしかつた。私達、五・六年は、



午前中に米運びに行つた。青梅街道を石にまがつてずんずん歩いて行つた。夫へん水たまりが太く乗物がくるとこにはぬかされてたまらなかつた。そのたびは私達は敵機來襲とか言つて、急いで逃げやうにしてよけるのだつた。遠くに踏切りが見えた。そのちよつと前で止つた。すると、それはこつちへこい、おつしやつて、ううと何も持たずに學園に向かつて歸つて來た。お米は男の人達が全部持つて來て下さるのだ。歸つて少したつてから、お食事のたのこが鳴つた。

午後、女學校の方の水道みたいたところへ行つて、びきの練習をした。おせいしよをして、かち、喜門先生を、お呼びしてきて、へんなところを、たはして、いただいた。

三月一日 木曜日 曇

けさ來た頃に二番だつた。けさも、雪が永つてのつて、ももぐらり、かつたので、かつと、そののつて行つた。午前中に服装持つて、女學校へけさの練習をしに行つた。みんな、うっかり服装を、して、ニ、ニ、お、い、こをした。それから、園舎に歸つて、お、後をした。英語の自習には、宇治川の先陣の全文書をした。



午後、日記を書いた。それから、漫画と、お、懸命讀みだした。それから、二班は、便所掃除をした。それが、すんでから、地理をした。



三月 二日 金曜日

一時間目は国語で源氏と平家のかいし  
やんとした。二時間目の算数に菅村先生  
がいらつしやらなかつたので国語の續  
きをした。お裁縫の時わきをぬつた。  
午後すぐにお風呂に行つた。よく  
洗つてあつをみんなおとした。みんな  
がはいり終つてから地理の授業をし  
た。それでしんだいがでた。  
地理が終つてからあずのびきの練習  
をした。今日はすっかり服装をし、木  
もたててよく練習した。それからわ  
りあひすぐに夕食になつてしまつた。  
夕食はライスカレーがあつた。

三月 三日 土曜日 晴

### ひな祭

今日は楽しい嬉しい、今  
まで持ちこたへた日で



も今日は授業がないので、身が軽かつた。  
喜ぶ勇んで学園に行つた。

九時になつて、高い机をお部屋の中へ入れ  
てから始めた。次々に面白いたいわやげき  
がされていつた。みんなとてゝお上手だ  
つた。八番目には、慰問隊がきて、特別な  
出演があつた。始め、まんだいめのやうなの  
があつた。お笑ひばかりで、今日は、お笑  
ひで、過すやうなものだつた。あとの方  
はかみきりややり、河をいつても、そのとば  
にきりりに見るみるうちに切れ、そ  
れには驚いてしまつた。そして、それと切  
つてくれと言つた人は、もらへるのだ。み  
んは、おもしろいのかい、のをさがして言つ  
たが、やさしさうにうつす切つて行く。  
残念ながら、私は、もらへなかつた。笑ひ  
の意で、特別出演も終つた。  
そして休けいした。私達の前のびが見



られなくて、嬉しかった。

最後、閉會の前の前に六年生のこれ松さんがおれいの言葉があつた。

やがて楽しい持ちちに持つた學問の會も

う過去つてしまつた。

たいくつして、お部屋の中で、きよろきよ

ろしたり、外をのぞいてみたりしてゐる

と、先生方がリヤカーを、おもしろくして

ひいていらつしやつた。おせき飯が来た。

まもなくお食事のたいこが鳴つた。

おせき飯である。ふたをあけるとおいし

さうな、赤いお赤飯がはいつてゐた。

今日は、私のおゆんで何もかも先生に

配つていただいた。

ごましほもあつた。大へんにおいしかった。

午前は、米運びであつた。私は、松岡さん

のりやつくさつくと、おかりして行つた。

歸つてから、おせんたくをした。

三月 四日 日曜日

朝、敬報がでた。

急いで學園に行つた。行くこどうじにう

らからはいつて、すぐに御飯を配つた。

午前中に敬報になつた。みんな聲をあ

げて喜んだ。とくに三年生は喜んだ。

二年生は、面會人の来るのを、見のこさな

かつた。私は、おせんたくをしてゐた。

晝食にちくわがでた。久しぶりにたべ

て、とてもおいしかった。

午後になつて、雪が降り出した。

う節分もすぎ、今度こそ降るまいと

思つたのに降つてしまつたので、驚いて

しまつた。午後、私は、いよいよ突になつた。

それから、日記や地理をした。

夜、喜門先生のおとまりだった。ちよう

び、てい電だったので、宮本武蔵のお

話をして下さつた。とてもおいしかった。



三月五日 月曜日

三時間目に地理のしけんがあつた。  
みんなびめいをあげた。

午後、私は日記を書いた。

それから六年生に記念に繪を書

三月六日 火曜日

今日は、地球ゼツだ。

午前中は、お式をした。

お式がすんでから、堀先生のセ藤物語

のお話まで、七理さんといつしよに五

ナをしたリ、ペイジワンをしたリして

面白く遊んでゐた。

やがて、たいこが鳴つて、お話が終ま

つた。

とても面白かつた。

午後、私はお風呂にはいつた。

それからおせんぱんをしてゐると、お

ハつになつた。

久しぶりで、おいしいあめが半分づつだ  
つた。

三月七日 水曜日

午前中は、時習が、とても多かつた。

私は、日記を書いた。

午後、敬報が出た。

いいよになつてから、おしように中を取

りに行つた。

あまり重かつたので、ふうふうになり、

汗だくだくになつてしまつた。

三月八日 木曜日 晴

午前中は、今日は、全體で薪運びなので

下きゆう生から、並んで、竹やぶのへんに

行くと、敬報が出た。 みんな

走つてしまつた。







まじりガクイ會。慰問隊特別出惠。書信オモハル  
中マシ。午後未還。ひろさん。

四日。朝。歌報がきて、學園うらからはいり。すぐ配食

牛乳中にかいじ。せんたん。書信。ちとわ午後、

云々。笑。日記。ナリ。夜。喜門先生。お話。宮本武蔵

について